

り丈の難有さ

〔雍州府志七土產〕磁器略○中

自中華所來之磁器有畫僧牧溪之下畫者往々有之多畫鯉魚是謂牧溪

鉢之類也

以用法爲名

〔延喜式五齋宮〕造備雜物略○中

壺鉢二口

〔天安寺伽藍緣起并流記資財帳〕合白銅漿鉢貳口佛物

〔御入部伽羅女二〕僉儀は花崎二枚手形

去年堀川の道具屋喜右衛門方にて壹兩二歩に相調へし肴鉢御破り略○下

〔元祿太平記四〕難波の色は埒もない者

ゑる人を相手に肴鉢にて呑かけ酔た機嫌に丹波屋の女郎浮舟をかりて朝込の約束略○下

〔萬載和歌集六〕客に下戸なしといふことを

客は皆酒の肴の鉢なれやちよとよればさしちよとよればさし

〔槐記〕享保十二年四月三日午後ヨリ左典厩ガ宅へ茶ニ御成即チ御供略○中 香物鉢ナリ手付角ヨリ

エ角

〔鳩翁道話續々編〕去る所の下女が香の物鉢をとりおとして割ましたれば内儀が大聲をあげて

おりん何をわつたのじや、ハイかうのもの鉢を取おとしまして大きに不調法でござりました

略○下

〔臨時客應接〕菓子ハは菓子鉢歟銚々盆の類ならば紙を敷に不及略○下

〔下學集下器財〕再進鉢サイシンハチ

〔異制庭訓往來〕再進鉢